

第293回 令和8年9月17日（木）

「終わり方が大事」

公立高校の教員には人事異動がつきものです。部活動の指導者だったころ、チームを去る日が必ず来るのですが、私が心がけていたのは「去り際に未練を残さないこと」でした。

面倒を見た選手の引退試合は観に行くこともありましたが、基本的に一度去った体育館にはなるべく足を踏み入れないようにしていました。なぜかといえば自分自身が次のステップを踏めないからです。

部活動に区切りをつけて管理職になった時も頭の中で割り切って「しっかりと終わる」ようにしました。バスケットは好きですから本校の試合なども時々観させてもらいますが、ステージが変わっていることは常に意識していますので、なるべく余計な口をはさむことがないように気をつけています。

人間はどこかで引退をします。重役でも引退後はただの人になります。たまにお年寄りで「終わっていない人」を見かけます。残念ながら肩書がなくなったことに気づかず、自分に対する扱いに立腹したりしています。「終わり方」が下手な人はいつまでたっても次のことを始められず、中途半端になりがちです。

「終わり方」はとても難しいものです。一度手に入れたものを手放すことにはとても抵抗感があります。しかし「終わり方」を誤ると、次のステージに進むことができません。本によれば「終わった」あとは一度「空っぽ」になる。そのうえですべて新しく切り替えて次に進むことが大事だということでした。

成功すると次のステージで「ふりだし」に戻ることがとても難しくなります。これは成功したのが自分の力だと思うからです。成功は他者の協力によって成し遂げられていることを改めて確認してください。いつまでも同じ場所にいたら、成功しているのですから与えられるのではなく与えることが多くなります。次のステージを1から始めることで、新しい他者の協力が得られます。

部活動を引退したり、高校を卒業したり、会社を転職したり、みなさんにも多くの転機が訪れます。以前のスキルを活かすことは悪いことではありませんが、以前獲得した功績はしっかりと手放したほうが新たな世界で次の成功につながりやすくなります。

私も今の職を退くのはそれほど先の話ではないと思います。「校長」と呼ばれるのではなく、名前前で呼ばれることを楽しみにしています。不器用なので怒られることもあると思いますが、しっかり学ぼうと思います。